

「新日本製鐵(株)と住友金属工業(株)の経営統合に向けた検討開始について」
アナリスト説明会における主な質疑応答

開催日時 2011年2月3日

説明者 新日本製鐵(株) 代表取締役社長 宗岡正二
住友金属工業(株) 代表取締役社長 友野 宏

	質問	回答
1	製鉄所の融合、システムの統合、独禁法などのさまざまな困難をどう克服するか？	製鉄所の統合は今までもやってきたことです。システム統合は大仕事だがやっています。
2	お互いの文化の違いをどう考えているか？	違いは乗り越えられると考えています。
3	国内の生産設備を減らすのか？	考えていません。
4	神戸製鋼が合併に加わらないのはなぜか？	神戸製鋼との関係は従来通り続けていく所存です。
5	住友はシームレスパイプの分野で独自に戦う選択肢もあったのでは？	統合するのが双方にとって最も良い選択だと考えています。それはシームレスパイプについても同じです。
6	統合することで原料調達面で有利になるか？	原料を使いこなす技術、例えば品位の低い鉄鉱石を使う技術や、資金力などの面で優位度が上がるだろうと考えています。
7	今回の再編の特徴は？	将来に向けた再編だという点です。
8	お互いに自社にないどんな特長に魅力を感じているか？	新日鉄：住友金属が鋼管で競争力を持っている点です。 住友金属：世界トップの鉄鋼会社としての長年の経験です。
9	新日鉄の中期計画で数量目標 5000～6000万トンという数字があったが、今回統合でどう変わるか？	統合会社の目標はこれから検討します。
10	統合で忙しくなり、海外戦略が遅くならないか？	海外戦略の加速は今回の統合の目的の一つです。
11	統合の成果としてコスト技術面でどう優位性をだすのか？	両社の資源を一緒にするので大きく優位に立てます。コストダウンの具体的な数字はありませんが、相当のものがだせると考えています。
12	具体的な統合効果の数字が無いのは発表を急いだためか？	合併検討に入ると言う意思を確認して、これから具体的な効果は詰めたいと考えています。
13	何が決め手で統合になったのか？	経営環境、将来の見通しの認識が一致したことです。
14	統合後、スラブ供給のアライアンスなどのスキームが変化するのか？	原点にかえって議論しながら進めてまいります。
15	2社合計すると5000万トン規模になるが規模は充分か？	数量だけで比べるべきだと考えていません。技術・品質と数量のバランスした世界トップクラスの鉄鋼メーカーを目指します。
16	事業持株会社形態での統合のメリットは？	早く統合のメリットが取れるということです。
17	公正取引委員会に事前相談したか？勝算はあるのか？	公正取引委員会への相談はこれからです。両社の得意分野はダブっていないので足しても異常に大きなシェアになるわけではありません。当局にもご理解をいただけるのではないかと考えています。

以上